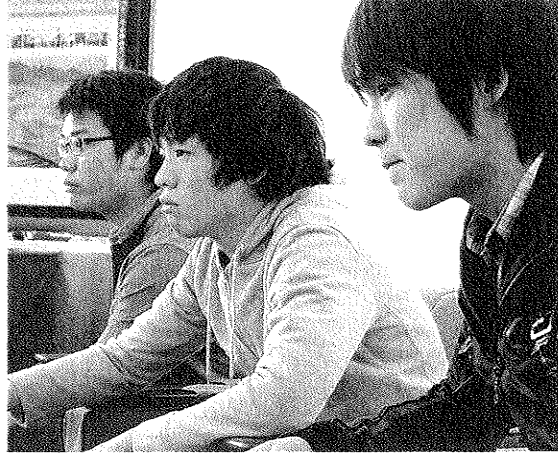


三重大医学部生 福島で医療活動

福島県で医療活動に参加した三重大医学部の学生たち=多気町役場で



福島第一原発から半径三十キロ圏内で、医療の手が行き届いていない地域を支援しようと、三重大医学部の学生三人が福島県いわき市で医療活動に参加し

岡野さんの公約は地域医療、福祉、教育など多岐にわたる内容ですが、その実現にあたって財源をどのように捻出するのか、教えてください。

鈴木英敬より

職員などの当事者による「中小企業振興会議」を設置し、内発型の地域振興をすすめます。農商工連携の支援で地元産品の利用をすすめ、仕事と雇用を増やします。小学校区単位に生鮮食料品店や医療機関、官公署、公共交通などを整備します。「誠心誠意」。これが私の政治信条です。

(敬称略)

「経験 みんなに伝える」

多気で報告 診療所仮設、医師手伝う

上がったのは四年の植田大樹さん(三三)と二年の河田信彦さん(三〇)、森貴祐さん(三〇)。三人は同大OBの医師(三〇)らと先月二十五日に現地入り。震災後、一度も医療者が入っていない同市久之浜地区で五日間活動した。

地区の人に案内してもらい、寝たきりのお年寄りを中心に訪問。集会所に診療所も仮設して、持病の患者や健康が心配な住民たちも診療した。医師免許のない学生たちは問診や血圧や体温の測定、カルテの作成などで医師を手伝ったという。

「放射能は怖かった」と三人は口をそろえる。だが医療を待つ

上がったのは四年の植田大樹さん(三三)と二年の河田信彦さん(三〇)、森貴祐さん(三〇)。三人は同大OBの医師(三〇)らと先月二十五日に現地入り。震災後、一度も医療者が入っていない同市久之浜地区で五日間活動した。

水産業支援1億2800万円

津波被害 対応で県 補正予算専決処分へ

県は六日、東日本大震災支援本部員会議を県庁で開き、津波で被害を受けた県内の水産業を支援するため、本年度一般会計に約一億二千八百万円を計上する補正予算案を専決処分することを決めた。

県内では津波によりマダイなどの養殖いかだが流出したり、魚が死滅したりする被害が発生。被害総額は現時点で四十一億円に上り、早急な支援が求められることから、閉会中の県議会には諮らず専決処分での対応を決めた。

補正予算案には、がれきや魚の死骸の処理費として八千五百万円を盛り込む。(鈴木龍司)

麻生 政 自民の 相とみん 喜美代表 が推薦す 新人候補 相次いで 民主政権 事故への 対応で中 戦とした 対応は進ん 非難。